

## 第6学年 国語科学習指導案

児童 6年1組 男14名 女13名 計27名

### 1 単元名 表現を味わい、豊かに想像しよう

教材名 「やまなし」

〈資料〉「イーハトーヴの夢」 (光村図書 6年下)

#### 学習指導要領 第5・6学年〈読むこと〉

- ・ 目標 「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」
- ・ 主たる指導事項 「目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。」  
〈読(1)イ〉  
「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述についての自分の考えをまとめること。」  
〈読(1)エ〉  
「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」  
〈読(1)オ〉

### 2 単元について

#### (1) 児童について

児童はこれまでに「読むこと」の学習として、「カレーライス」では、会話文や行動に着目しながら登場人物の心情の変化を読み取ったり、視点を変えて作品の1場面を書き換えたりする学習を行った。「森へ」の学習では、写真や比喩表現など表現の工夫に着目し場面の状況をイメージしたり、作者の森に対する思いを読み取る学習を行った。また、複数の本を選んで比べて読み推薦文を書くという学習を行った。これらの学習を通して、場面の構成を考えたり、登場人物の心情が描写されているところを文中の表現から見つけて読み取ったりすることができるようになってきた。また、作者の思いについて自分なりの考えをまとめたり、言葉を吟味しながら表現を工夫して書こうとしたりする児童が増えてきた。

しかし、まだまだ語彙が少なく、十分に言葉の意味をとらえることができない児童、表現の工夫に着目して読み取ることができない児童がおり、想像力には大きな個人差がある。また、自分の考えを話すことを苦手としている児童もいる。

児童の多くは読書を好み、朝読書の時間やちょっとした時間を見つけて読書している。しかし、読んでいる本に偏りがあり、伝記を選ぶ児童は少ないように思われる。そこで本単元の学習を契機に伝記に関心をもたせるとともに、岩手の先人である賢治の他の作品にもふれさせたいと考える。

#### (2) 教材について

本教材は、宮沢賢治の物語「やまなし」と、資料として添えられた宮沢賢治の伝記「イーハトーヴの夢」から成っている。「やまなし」は、宮沢賢治の独特な表現や、比喩表現などが駆使された、象徴的で深い思想性をもつ作品である。児童は、「二枚の青い幻灯」で対比されている、それぞれの世界について、豊かな表現の一つ一つがもつ響きやリズム、イメージを大切に優れた叙述を味わい、言葉に対する感覚をみがいていけるものとする。さらに作者の思いや作品の主題についても気づかせたい。

「イーハトーヴの夢」は、宮沢賢治の生き方や考え方、作品などを紹介した伝記である。この文章を読むことで、児童は宮沢賢治の生き方について触れることができるであろう。広い知識と高い理想をもつ賢治を知り、その賢治が書いた他の作品への興味も深めることができると思われる。そして、「やまなし」から感じ取ったことと、「イーハトーヴの夢」で紹介される宮沢賢治の生涯から、宮沢賢治の生き方や理想について考えたことを交流することにより、自分を振り返るよい機会となるであろう。

児童にとっては「やまなし」は難解な部分や謎の部分が多いが、手がかりとなる表現を取りだ

し、豊かな想像性を発揮して読み進めていくおもしろさを味わえる教材と言える。また、伝記は、人間が失敗し悩みながらも不屈の闘志で人生を生き抜いていく様子から、自分自身を見つめ直したり、ものの見方や考え方を広げたりするのに適している教材といえる。

(3) 指導に当たって

第1次では、まず、「雨ニモマケズ」を紹介し、宮沢賢治作品に興味をもたせ、並行読書をよびかける。そして、「やまなし」の全文を読み、感想を交流し、読みの視点をもたせたい。学習の最後には、自分の生き方についての考えを深めていこうという単元の見通しをもたせて学習計画を立てる。

第2次では、叙述に即して「五月」と「十二月」の情景を想像豊かに読み取り、対比されているものについて自分の考えをもって友達と交流しながら、作者の思いについて考える。

第3次では、資料「イーハトーヴの夢」を読み、賢治の生き方や理想としたことを読み取る。また、並行して読んできた他の作品とあわせて、作品の中に現れている賢治の生き方や考え方をふまえ、自分の生き方について考え、交流する。

3 指導目標

【国語への関心・意欲・態度】

- ・ 「やまなし」に描かれている二つの世界を対比させて読んだり、作者の生き方や考え方にふれたりすることにより、自分の考えを広げたり深めたりしようとする。

【読むこと】

- ・ 叙述に即して谷川の情景を想像しながら、イメージ豊かに読むことができる。  
＜読（１）イ、エ＞
- ・ 他の作品や伝記を読んで考えたことを交流し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。  
＜読（１）オ＞

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・ 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもち、想像を広げながら読むことができる。  
＜伝イ（カ）（ケ）＞

4 指導計画（11時間） 読む 11時間

段階	時	学 習 活 動	評 価 規 準
第1次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「雨ニモマケズ」を読み、作者への関心をもつ。</li> <li>・ 全文を読み初発の感想を書く。</li> <li>・ 新出漢字、難語句の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進んで初発の感想を書こうとしたり、作者について関心をもって他の作品を読もうとしたりする。  <span style="float: right;">＜関・意・態＞</span></li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「やまなし」の文章構成をとらえ、2枚の幻灯に写し出されているものを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「五月」と「十二月」の谷川の情景について、表現に着目し簡単な図に整理することができる。  <span style="float: right;">＜関・意・態＞</span></li> </ul>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の見通しをもち、学習計画を立てる。</li> </ul>	
第2次	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「五月」の谷川の様子を読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ かわせみやかにの親子の様子に着目して「五月」の世界を想像しながら読んでいる。  <span style="float: right;">＜読（１）エ＞</span></li> </ul>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「十二月」の谷川の様子を読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ やまなしやかにかの親子の様子に着目して「十二月」の世界を想像しながら読んでいる。  <span style="float: right;">＜読（１）エ＞</span></li> </ul>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「五月」と「十二月」を対比しながら、それぞれの世界のイメージの違いを読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「五月」と「十二月」の世界の違いを読み取り、そこから分かる作者の思いについて考えている。  <span style="float: right;">＜読（１）イ・エ＞</span></li> </ul>
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝記「イーハトーヴの夢」を読み、賢治の生き方・考え方について読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宮沢賢治の生きた時代と賢治の考え方や理想について考えている。  <span style="float: right;">＜読（１）オ＞</span></li> </ul>

第 3 次	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>作者の生き方や、ものの考え方について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮沢賢治の他の作品からも分かる、作者の生き方や考え方について自分なりに考えている。 ＜読（１）オ・カ＞</li> </ul>
	9 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>「やまなし」や他の作品で読み取ったことと結び付けて、賢治の考え方について分かったこと、思ったことを話し合い、自分の生き方について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>題名の付け方、文章中の表現、言葉の使い方から、作者の思いを推測している。 ＜読（１）オ・カ＞</li> </ul>
	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生き方について考えたことを交流する。</li> <li>単元全体の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの考えを聞き合い、さらに自分の考えを広げたり深めたりしている。 ＜読（１）オ＞ ＜関心・意欲・態度＞</li> </ul>

## 5 本時の指導

### (1) 目標

読みの視点に沿って、「十二月」の世界を読み取ることができる。

### (2) 指導に当たって

#### ① 対話について

上からやってきたもの、かのに親子の行動や会話をもとに、一人学びでは叙述に即して想像したことを書き、自分の考えを確認したり、一人では限りがあるイメージを膨らませたりするためにペアで対話させる。互いの考えを聞き合うことにより、共通点や相違点に気づくとともに、一人一人の想像の世界がさらに広がったり深まったりするものとする。

#### ② 学び合いについて

対話することで確認した自分の考えと、友達の考えとをあわせて全体で交流し合い、さらに多様な考えに気づき、豊かに想像を広げながら、「十二月」の世界についてまとめる場とする。

### (3) 展開

段階	時間	学習内容と活動 活動（・）主発問（○）	指導上の留意点（・）と評価（◎）
見 通 す	5 分	1 前時までの学習を想起する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「五月」は明るく動的な美しい世界の中で、生命の奪い合いがあることを確認する。</li> <li>「五月」と対比して配置される語句や表現に着目して「十二月」の谷川の情景を読み深め、十二月の谷川の世界についてまとめることを確認する。</li> </ul>
		2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">「十二月」の谷川の世界を想像しよう。</div>	
深 め る	35 分	3 学習場面の音読をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「十二月」の場面を音読する。</li> </ul> 4 学習課題を解決する。 <p>(1) やまなしが落ちてくる前の谷川の情景を想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水の様子とかのに親子の様子から想像する。</li> </ul> <p>(2) やまなしが落ちてきた後の谷川の情景について想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「上からやってきたもの」「かのに親子の様子」という視点に沿って、想像される情景について書き込みをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「十二月」の情景が分かる表現に気をつけながら音読することを確認する。</li> <li>暗く冷たく寒く、生命が枯れて静かな冬の季節であると同時に静かで美しく、かのに親子の会話からは平和な谷川の情景が読み取れることを確認する。</li> </ul>

深 め る	(3) 自分が読み取ったことについて対話を する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>根拠となる言葉や文を明確にして、自分の考えをはっきり話し、互いの考えを聞き合うよう指示する。</li> </ul>
	<p>T：やまなしが落ちてきた後の十二月の情景について想像したことを話しましょう。「( )」の視点で考えました。〇〇という言葉から□□ということが想像できました。」というように話しましょう。共通点や相違点を見つけて互いに話し合しましょう。</p> <p>A：わたしは、上から落ちてきた物の「やまなし」の視点で考えました。「黒い丸い大きなもの」「黄金のぶち」という言葉から「落ちてきたときの色は不気味だが、大きくて優しそうなもの」「黄金に光って美しいもの」が落ちてきたということを想像しました。Bさんはどうですか。</p> <p>B：ぼくは、かへの親子の様子を視点で考えました。「おどるようにして」「追いました。」という言葉から、かへの親子が楽しそうにわくわくしながらやまなしを追いかけている様子を想像しました。Aさんもぼくも、平和な感じがしますね。Aさんは、どう思いますか。</p> <p>A：どちらの視点からも、楽しそうな感じが分かりますね。他には、どんなことが想像できましたか。</p>	
	(4) 全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話したことを発表し合い、二つの視点に沿って想像したことを黒板にまとめ、谷川の情景について確認する。</li> <li>かわせみとはちがって、期待感や幸福感が満ちてきたことに気づかせる。</li> </ul>
	(5) 課題のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>次の二点について押さえることを確認する。</li> <li>① やまなしが落ちて来る前の谷川の情景。</li> <li>② やまなしが落ちてきたことで、かへの親子にとってどんな世界に変わったのか。</li> <li>◎ 全体交流をもとに、新たに気づいたことや深まったことなどを取り入れて「十二月」の世界についてまとめているか。</li> </ul>
	<p>「十二月」の谷川は、暗く冷たく静かで美しく、生命が息をひそめている。やまなしが落ちてきたことで、かへの親子にとって、希望や期待・幸せに満ちた世界になった。</p>	
ま と め る	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1) 学習場面を音読する。</p> <p>(2) 学習の感想を発表する。</p> <p>6 次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「十二月」の世界を思い描きながら本時の学習場面を音読したり感想を発表したりすることを指示する。</li> <li>「五月」と「十二月」の世界を比較したり作者の思いについて考えたりすることを確認する。</li> </ul>

< 具体の評価規準と支援 >

A： 「十二月」の世界について交流したことをもとにして、「五月」の世界と対比させながら、どんな世界なのかまとめて書いている。

B： 「十二月」の世界について交流したことをもとにして、どんな世界なのかまとめて書いている。

C 児への支援

谷川の様子と、やまなしが落ちてきた後の、かへの親子の様子が分かる文や言葉を確認し、どんなことが想像できるか考えるように支援する。

(5) 板書計画

やまなし

宮沢 賢治 作  
かすや 昌宏 絵

「十二月」の谷川の世界を想像しよう

生命がcaれる 鉱物の世界

月光 (夜)

静か 透明 美しい

月明かり

かこの兄弟

あわくらへ

穏やか

のんびり

静か

上から落ちてきたもの (やまなし)

生物

優しい音

そのとき、トブン。こわいものではない。

ちよつと不気味 優しいもの 豊かなもの

黒い丸い大きなもの

それほど重くない。ゆったりした感じ

ずうっとしずんで、また上へ上っていききました。

美しい こわくない 光るいいもの

きらきらつと黄金のぶちが光りました。

—

おいしそうなもの おだやか 幸せでいっぱい

やまなしのいいにおいでいっぱいでした。

ユーモラス のんびり ゆっくり

ぼかぼか流れていくやまなし

においが強くてゆらめいている感じ

月光がにじのように輝いていて美しい

月光のにじがもかもか集まりました

かこの親子の様子

こわい。また、何かこわいものが来た

首をすくめて

とりに来たのかもしれない

「かわせみだ。」

正体を見きわめようと一生懸命目をこらして

遠眼鏡のような両方の目をあらん

かぎりのばして

心配ないぞ。こわいものではない。

「あれはやまなしだ。ついていっ

てみよう。 ああ、いいにおいだな。」

幸せだな。いい気持ちだ。

ユーモラス 楽しそう

その横歩きと底の黒いかげ法師が

お祭りかお祝いのように

おどるようになって

僕たちが食べられるわけじゃない

食べ物落ちてきたんだ

「おいしそうだね。お父さん。」

じっくり待ったほうが楽しいだろう。

「待って待って。」

「十二月」の谷川は、暗く冷たく静かで美しく、生命が息をひそめている。やまなしが落ちてきたことで、かこの親子にとって、希望や期待・幸せに満ちた世界になった。